

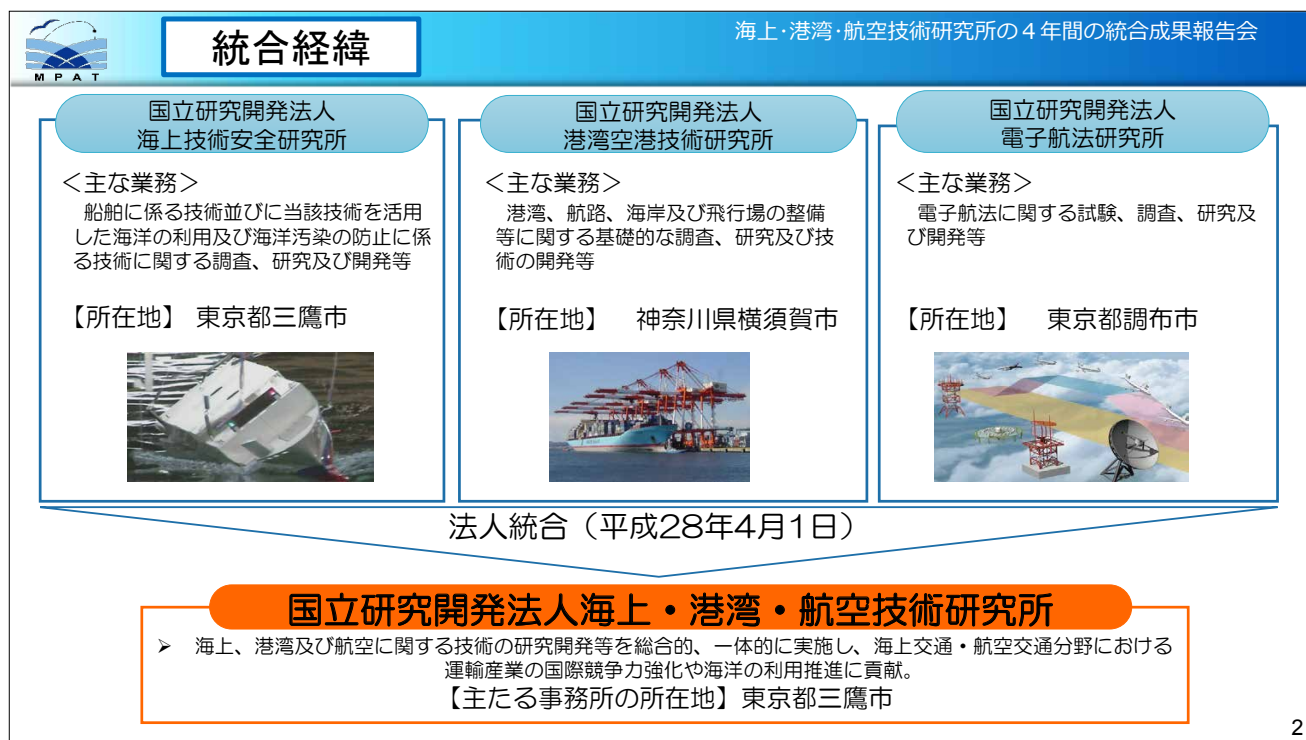
組織運営 業務運営
戦略的な研究所運営と
業務の効率的な実施

国立研究開発法人

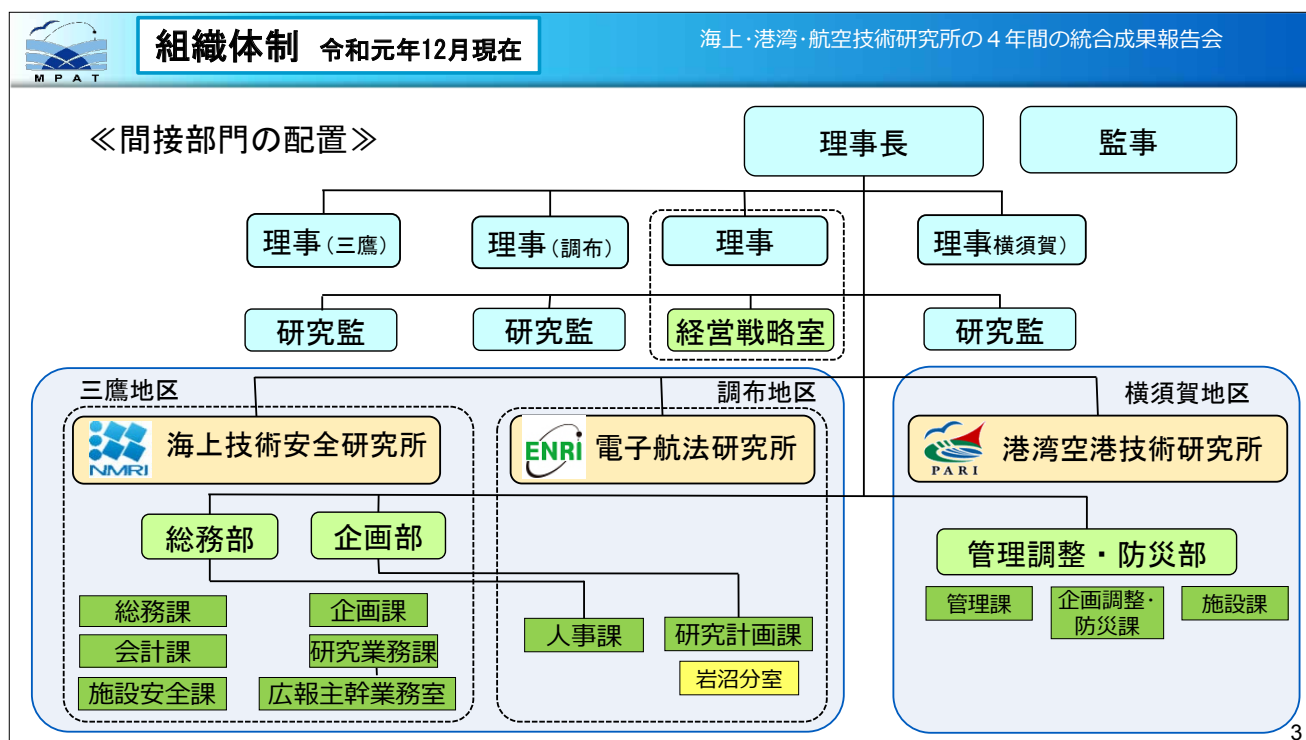
海上・港湾・航空技術研究所

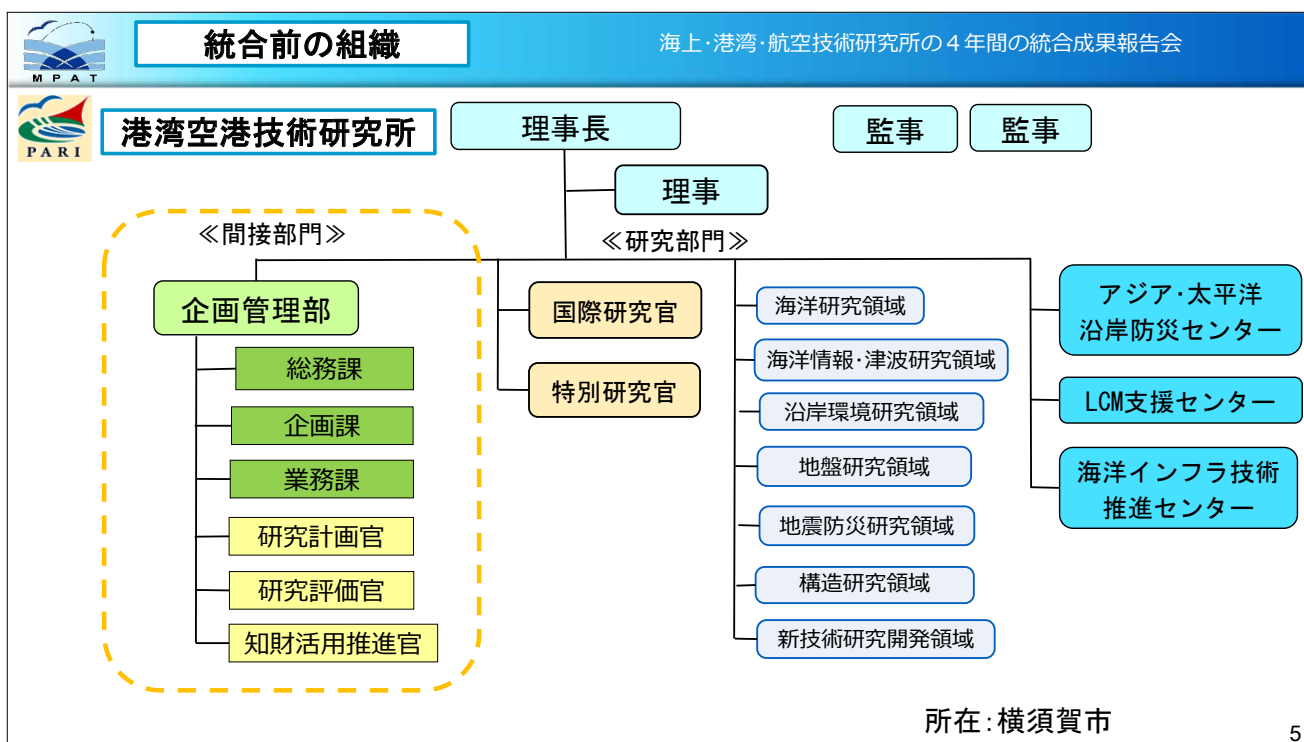
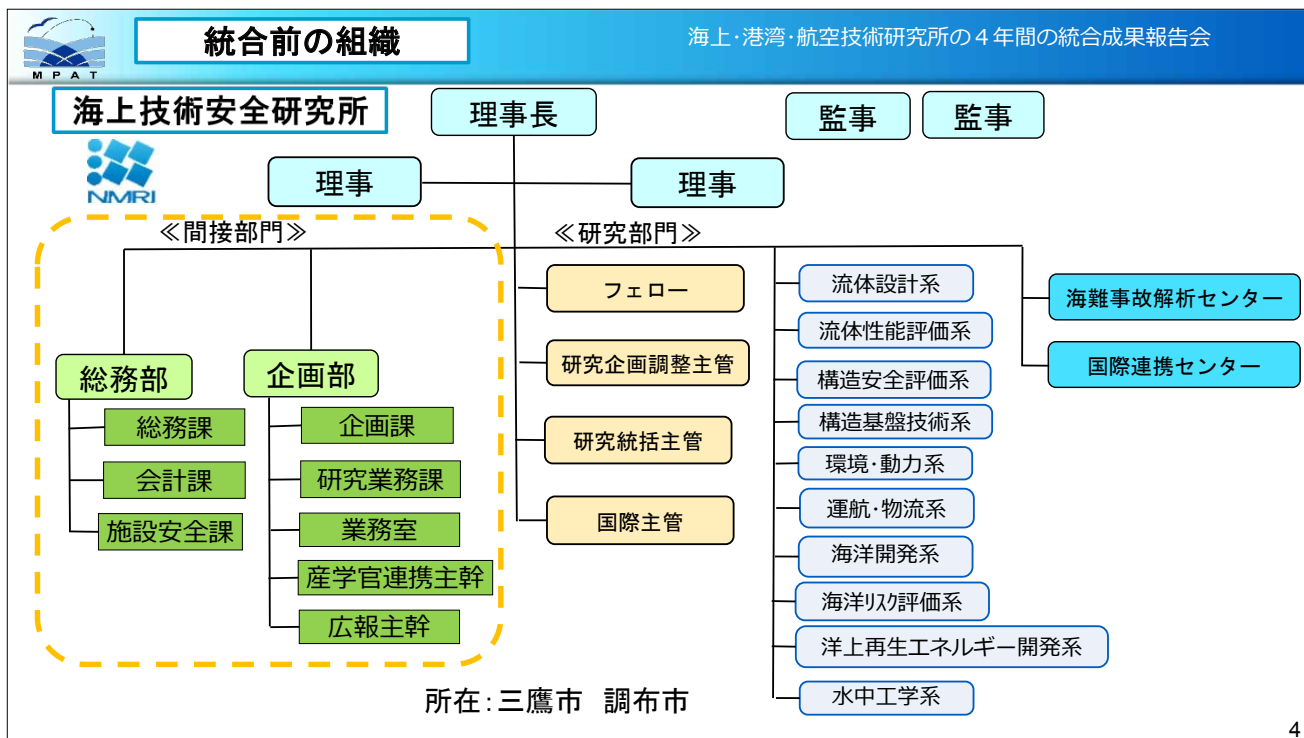
理事（経営戦略担当） 松井 淳

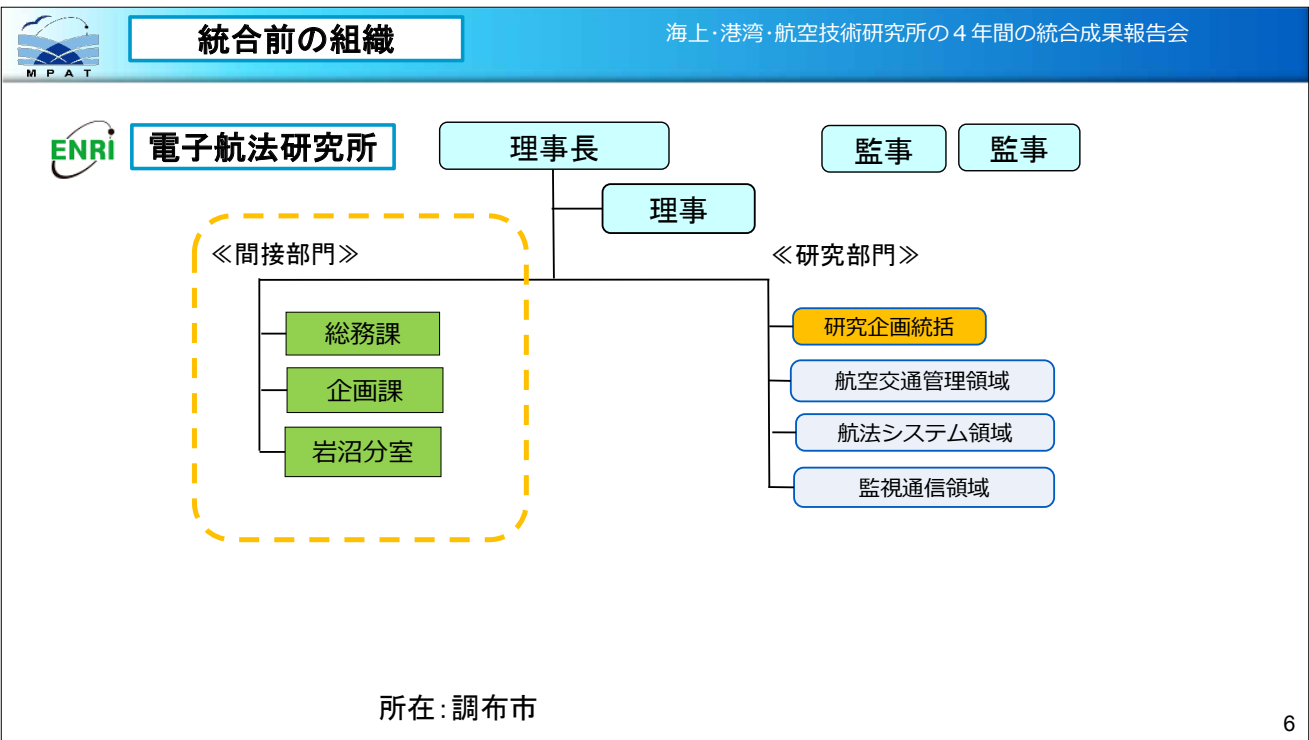
- I 組織と人員
- II 予算と収支
- III 効果的・効率的な業務の推進



2









役員等の変遷

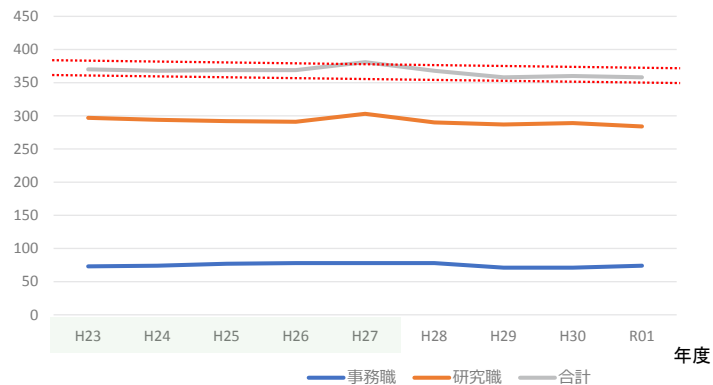
海上・港湾・航空技術研究所の4年間の統合成果報告会

平成28年 3月				平成28年 4月1日発足			平成30年 4月1日 (7月30日)			令和元年 12月10日現在	
理事長	海技研	茂里一紘	→	理事長	大和 裕幸	→				大和 裕幸	
	港空研	高橋重雄									
	電子研	山本憲夫									
理事	海技研	濱田哲	→	理事 経営戦略担当	鈴木 弘之	→	松井 淳	→		松井 淳	
		千田哲也					宇都 正太郎	→	宇都 正太郎		
	港空研	山本浩		理事 港空研担当	栗山 善昭	→				栗山 善昭	
	電子研	高木育男			理事 電子研担当	工藤 正博	→	小瀬木 滋	→		小瀬木 滋
監事	海技研	西宮良一	→	監事 三鷹・調布 担当	近藤 祥子	→				近藤 祥子	
	(非常勤)	中田愛子									
	電子研	小出勝久									
	(非常勤)	高德信夫									
	港空研	安達徹		監事 港空研担当	安達 徹	→	柳原 拓治	→		柳原 拓治	
(非常勤)	大石壽一										
役員等の数		13名	→	7名						7名	

7

職員数の推移

若干の変動はあるものの、
概括的には**持続又は微減**



各研究所職員数 令和元年9月末現在

研究所名 区分	海上技術安全研究所 職員数(常勤)	港湾空港技術研究所 職員数(常勤)	電子航法研究所 職員数(常勤)	合計 職員数(常勤)
事務職	42	19	13	74
研究職	158	81	45	284
合計	200	100	58	358

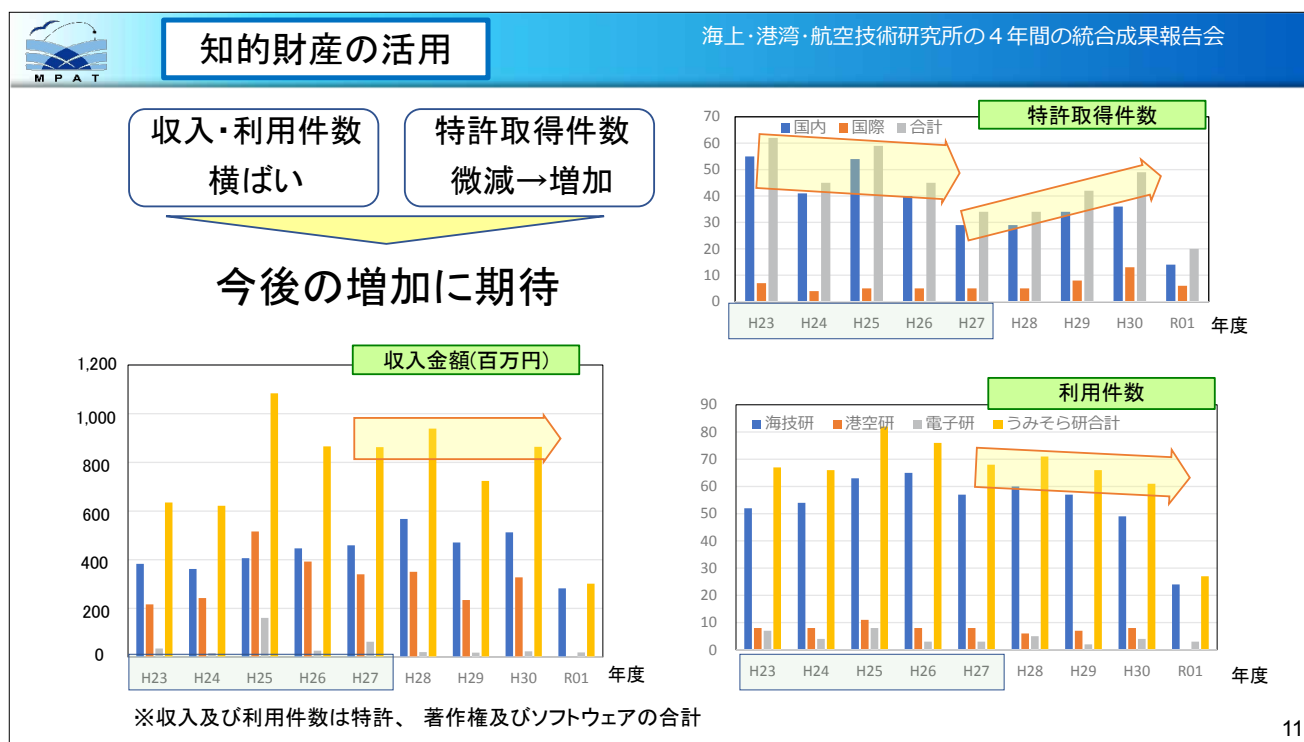
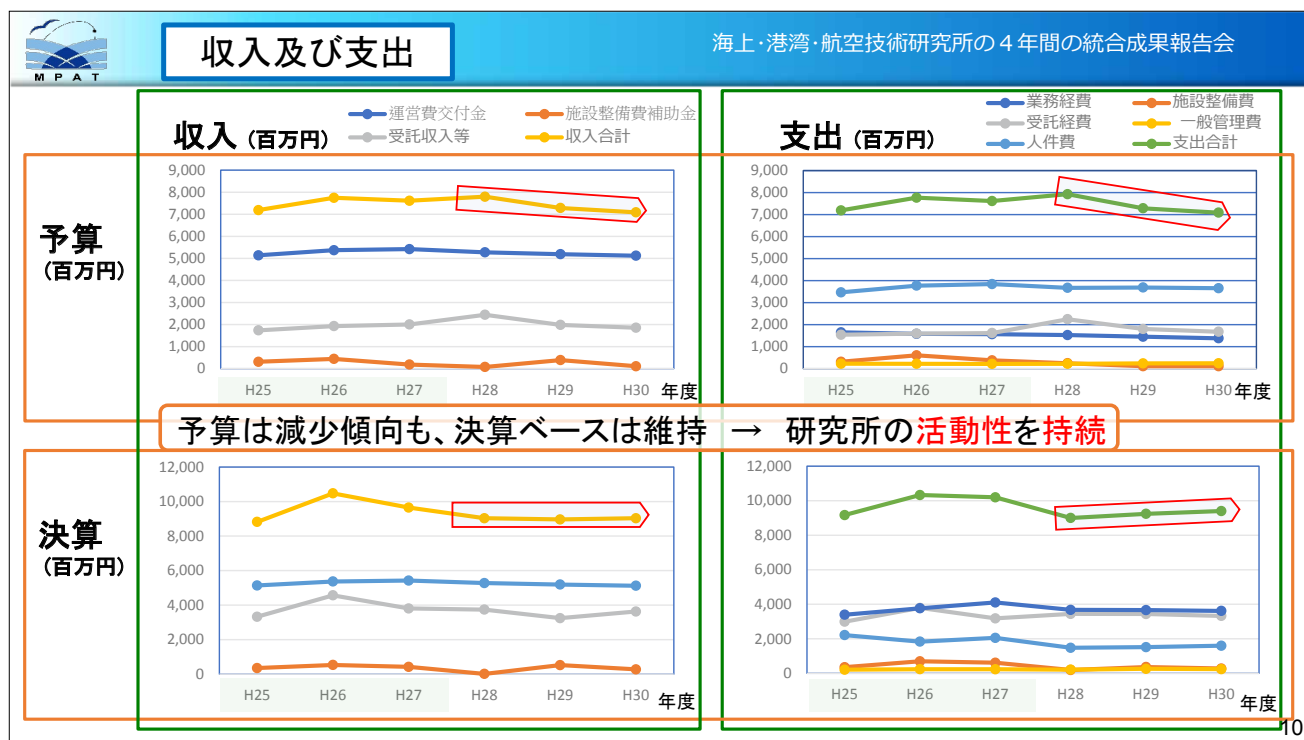
8

I 組織と人員

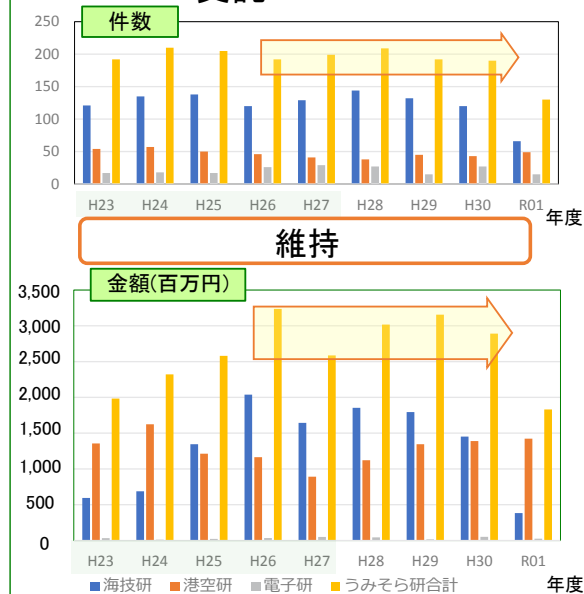
II 予算と収支

III 効果的、効率的な業務の推進

9

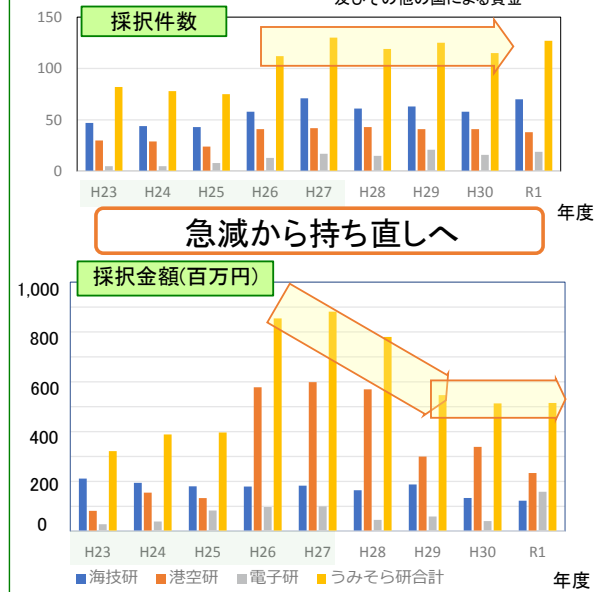


受託



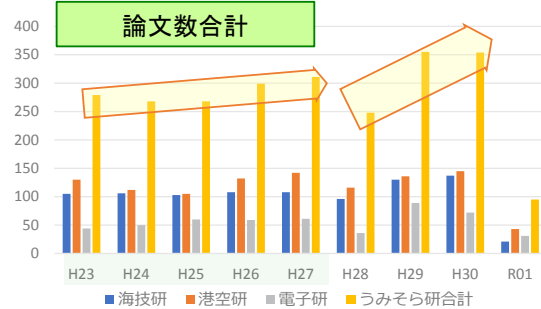
競争的資金

※科研費、交通運輸技術開発推進制度等
及びその他の国による資金

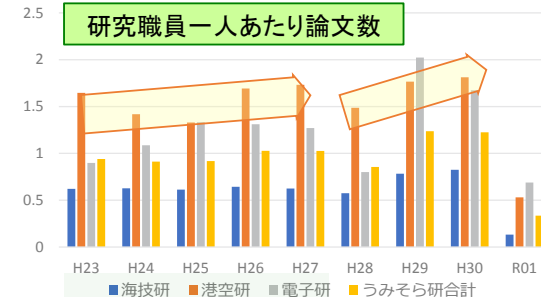


12

論文数合計

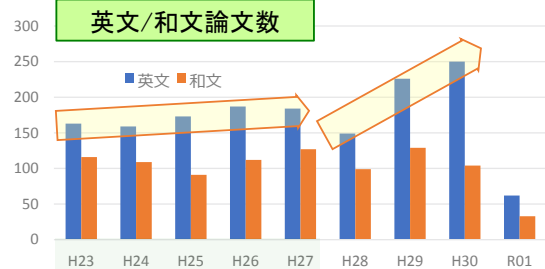


研究職員一人あたり論文数



(職員数は微減も)
論文数は増加傾向

英文/和文論文数



英文論文数
増傾向

国際展開の指向
にプラス

13



I 組織と人員

II 予算と収支

III 効果的、効率的な業務の推進

III-1 戦略的な研究所運営

III-2 業務の効率化に向けた取り組み

14



運営に関する年表 -主な施策・実績-

H28	研究監設置 基本理念及び運営方針の策定 経営戦略室設置 「所員の皆様へのメッセージ」配布、「取組表」の整理・配布 三鷹オープンイノベーションリサーチパーク構想 海技研設立百周年	分野横断的・共通基盤的研究の推進 ガバナンス・内部統制 研究成果の最大化／組織統制 ガバナンス・内部統制 外部連携の強化
H29	長期ビジョン策定(外部有識者委員会) 業務効率化検討委員会設置 三研合同での研修実施 電子研創設50周年	ガバナンス・内部統制 効率的な業務運営の推進 効率的な業務運営の推進
H30	役員懇談会（定期開催） 連携勉強会開始(0回AI+初回～第6回) 情報システムの統合－三研情報システム委員会 新会計システムの整備	研究成果の最大化／組織統制 分野横断的・共通基盤的研究の推進 効率的な業務運営の推進 効率的な業務運営の推進
R元	「うみそら研と所内3研究所のこれから」配布 三研報告会開催	ガバナンス・内部統制

15

研究開発成果の最大化・総合的な施策の推進

分野横断的・共通基盤的技術研究
推進のための戦略的な研究所運営

研究監
(研究監会議)

統合体としての効果的・効率的な
研究所運営

役員会
(議決機関)

役員懇談会

統合幹部会

業務効率化検討委員会

経営戦略室

16

研究監

分野横断的／共通基盤的技術研究
の推進

- 当該研究の管理・調整
- 3研連携勉強会を企画・実施
- 3研共同・連携による研究への外部資金
獲得を主導
- 【運輸交通技術開発推進制度】
H28年度: 海洋分野におけるドローン技術の活用
に関する研究
R01年度: 大規模災害時における海上・航空輸送
に関わるボトルネック解析

役員懇談会

研究成果の最大化、組織統制

- 3研合同の幹部会及び役員会に加え、
- H30年度からを定期的に開催
- 3研に共通する、
- 問題の検討
- 情報共有、認識共有、意識合わせ
- 迅速な意思決定
- うみそら研施策の全所への敷衍

17



業務の効率化に向けた取り組み

海上・港湾・航空技術研究所の4年間の統合成果報告会

3研究所 事務部門における効率的な業務運営の取り組み

○情報システムの統合・情報セキュリティ体制の整備

各研究所個別の情報システムを統合 ← 各研究所システム委員会が連携・調整
情報セキュリティ体制を整備・充実

○会計システムの統合・整備

3研究所が個別の会計システムを統合 ← 各研究所会計担当者が連携・調整

○業務運営効率化検討委員会

3研究所事務部門が連携
自主的な取り組みを継続的に実施

18



情報システムの統合・情報セキュリティ体制の整備

海上・港湾・航空技術研究所の
4年間の統合成果報告会

目的 セキュリティと利便性を両立させる情報システム環境の整備
円滑な情報共有を可能とし、業務の効率を向上

仕様 各研究所間のVPN接続の整備
統一したグループウェアの導入

経緯 【H27年】 3研究所情報システム委員会が連絡体制を構築

統合決定後、直ちに仕様調整を開始
各研情報システム（メールサーバー等）の更新の進捗により、最終的な統合が実現されるよう仕様等を調整

【H28年度】 3年間で統合整備を完了

～

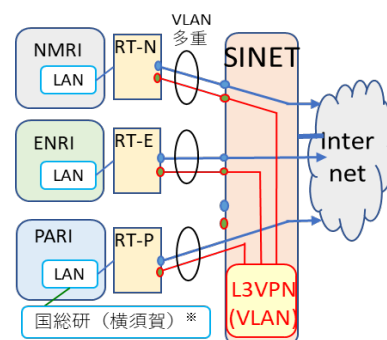
【H30年度】

統一された情報セキュリティ体制を構築

- 情報セキュリティ(IS)委員会を業務運営の責任者により組織
- CIRT(インシデント対応)は機能により実践的に定義し、即応性を高めて別途に組織
- 情報リテラシーの高い職員から最高情報セキュリティアドバイザーを選任し、活用

NISCセキュリティ監査を受検(H30年度)
監査において、他法人に推奨される良好事例として評価される

【H30年度以降】 電子決裁化等を推進中 （外部発表許可申請等）



19



会計システムの統合

海上・港湾・航空技術研究所の4年間の統合成果報告会

会計システム(H30以前)
3研個別のシステムを継承 ➡ 重いシステム改修負担
会計処理手順がバラバラ ➡ 円滑な決算処理の障害

システム統合の必要
但しシステム更新時期は不揃い

会計システム
改修要

会計基準変更
(令和元年度)

3研究所
会計担当者
による
相互連絡調整

統合の前倒しを計画

システム仕様 検討・入札・発注整備

稼働
準備

データ移行等・試験運用
職員に対する説明会

令和元年度初めより運用開始

会計処理手順等を統一、改修の手間は1/3に



20



業務効率化検討委員会

海上・港湾・航空技術研究所の
4年間の統合成果報告会

ー業務効率化を目指した自主的取り組みー

業務効率化検討委員会

組織

事務職員を中心に総務・企画の両部門で活動

総務部門 総務課長、人事課長、会計課長、管理課長等

企画部門 企画課長、研究計画課長、企画調整・防災課長等

活動

平成29年度から年数回 機動的に開催

事務処理の効率化

会議の効率化

各種研修の合同実施

企画作業効率化のためのノウハウの共有

21



業務効率化検討委員会 実績

海上・港湾・航空技術研究所の4年間の統合成果報告会

3研合同による研修の効率的な実施

知財研修

Webを活用した集合研修

情報セキュリティ研修
コンプライアンス研修

文書管理
個人情報保護等

e-ラーニングを
活用した個別研修

効率的な事務の実施、研究支援体制の充実

共同調達(5件/年)

Web会議の活用 移動による時間損失を抑制

旅費等の事務処理要領の統一及び効率化の検討

決済処理の電子化

外部説明、科研費応募等の企画作業のノウハウの共有

研究職員を対象とした要望調査をH30年度に実施

22



まとめ

海上・港湾・航空技術研究所の
4年間の統合成果報告会

- ・ 3研統合前後での研究所の組織的な変更及び予算や収支の変化について紹介した。
- ・ 厳しい財政状況にあっても研究所の機能や活力の維持・向上に努めている姿が現れている。
- ・ こうした取り組みとして、組織に係る取り組みや、情報システム及び会計システムの整備を紹介した。
- ・ さらに継続的な取り組みとして業務効率化の活動を行っており、引き継ぎうみそら研役職員全体で効果的・効率的な業務を推進する。

23

ご清聴ありがとうございました

効果的・効率的な業務の運営に努めて参りますので、
ご指導、ご支援をお願いいたします。